=市史編さん便り=　【4号】令和５年５月１日(月) 発行.
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

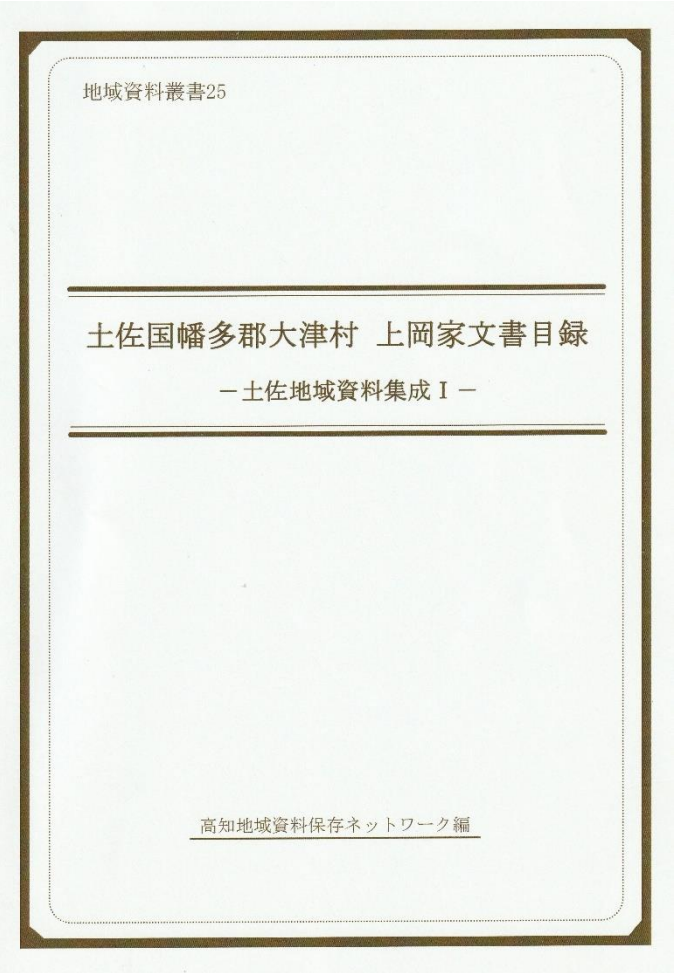
『地域資料叢書 25 土佐国幡多郡大津村 上岡家文書目録 ―土佐地域資料集成Ⅰ―』をご恵与いただく！

～近世「大津村の様相」や「大津村庄屋・上岡家の動向」が明らかに～

先月 14 日(金)の高知新聞・福田仁記者(元同社清水支局長)より『地域資料叢書 25　土佐国幡多郡大津村　上岡家文書目録　―土佐地域資料集成Ⅰ―』(高知地域資料保存ネットワーク、2023 年)の冊子を土佐清水市教育委員会と田村個人に二冊ご恵与いただいた。

編集・発行した高知地域資料保存ネットワークの楠瀬慶太氏・髙木翔太氏をはじめとする組織の皆様には、旧大津小学校の学校資料の保存に関わり、何回も遠路当市まで足をお運びいただき、その保存についてお骨折りいただいた。

さて、ここでご恵与いただいた冊子の内容について、その概要を紹介したい。最初に口絵で近世大津村の浦絵図が掲載されている。これは高知県立歴史民俗資料館所蔵の「大津浦図」である。ここには叶崎もしっかりと描かれている。また、①「上岡家先祖代々勤書(一部)」と②「増上寺台徳院霊家廟修復之為寸志銀指上之事(全文)」の原本の写しが画像で掲載されている。



①は、慶長以前の粟津郷浦(大津村の以前の地名、慶長年間に大津村と改称)が、百々伊織の知行所であり、その現地差配役に上岡牛之丞が任じられていた。その後、牛之丞の子「助右衛門」が跡を継ぐ。これが大津上岡家の初代となる。この初代から六代まで 195 か年の上岡家当主の動向や氏名をまとめた勤書が寛成 8 年 9 月 28 日付けの文書である。

②は、増上寺台徳院霊家廟の修復にあたり、有永村庄屋今城明八と大津浦庄屋上岡喜代作が連名にて修復のための資金援助のため、銀を寄進したことが記されている。台徳院とは、二代将軍徳川秀忠の戒名である。寛永７年(1632)に逝去した。その霊家廟が江戸貝塚(現在の千代田区平河町付近)に所在していた浄土宗七本山の一つ増上寺の境内南側に新たに建立された。(1930) 国宝に指定されたが、東京大空襲でその大部分が焼失した。

次に、刊行にあたり、高知大学教員・望

月良親氏の序文、凡例、史料目録の改題が続く。この改題で注目すべきは、大津村の漁浦としての機能が 18 世紀をピークとし、19 世紀初めから中期にかけて漁業から農業(新田開発)に産業振興策がシフトしている動向を読み取っている。

改題に続いて、三本のコラムが掲載されている。「上岡家文書、そして大津小学校資料」「上岡家当主への褒賞」「学校資料の可能性―大津小学校資料からみる―」の三本である。それぞれ福田仁氏(高知新聞社記者)、水松啓太氏(高知城歴史博物館学芸員)、望月良親氏の三氏が執筆されている。特に、福田仁氏の記述には、測量のため伊能忠敬が大津村を来訪したとき(文化 5 年・1808 年 6 月 8 日)に、その本陣として「大津郷浦庄屋代・上岡弁之丞(15 代当主)」の屋敷に宿泊したことを記している。「大日本沿岸輿地全図」作成のための第 6 次調査(1808～1809、四国及び大和路)のための現地測量である。上岡家庄屋の歴史は、大きくいえば日本史の流れにも登場すると言ったら言い過ぎだろうか。

最後に 12 頁を割いて「史料目録」、14 頁を割いて「史料文書の翻刻」が掲載されている。今回冊子にされた「上岡家文書」は、近世の市域西部の様相や庄屋の職掌等を研究する上で貴重な史料といえる。『新・土佐清水市史』編纂上、大変興味深い文献であると言えよう。

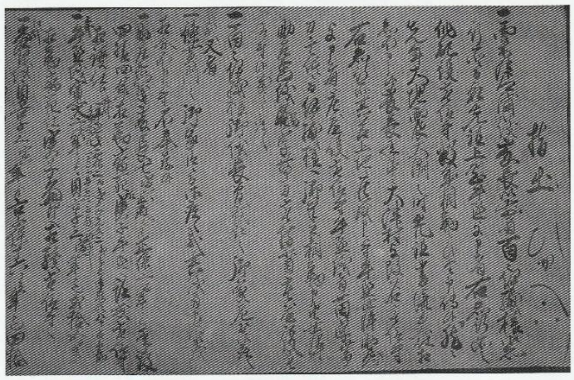
『土佐国幡多郡大津村　上岡家文書目録－土佐地域資料集成Ⅰ－』(地域資料叢書 25)

編　　集　**高知地域資料保存ネットワーク**
(望月良親(＝編集責任者)、福田仁、望月麻里、楠瀬慶太(＝編集者)、松本瑛子、森田拓男、近森啓二、今井章博、別役佳代、伊藤嘉高、水松啓太、門田由紀)

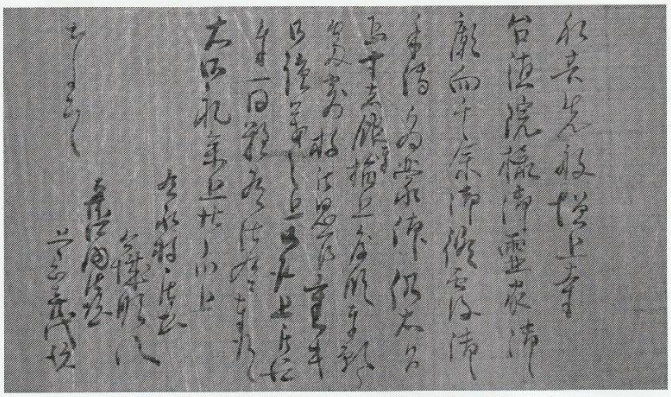
発 行 者　高知地域資料保存ネットワーク
(高知県高知市曙町２－５－１高知大学小幡尚研究室)

発 行 日　２０２３年３月３０日

印刷・製本　西岡総合印刷株式会社
〒640-8324 和歌山市吹屋町５丁目 54



指出 (MY1-8) 部分



(増上寺台徳院霊家廟修覆之為寸志銀指上之事) (MY1-11)

「上岡家先祖代々勤書(一部)」(左)、「増上寺台徳院霊家廟修復之為寸志銀指上之事(全文)」(右)の原本写し